

地域と共に創るまちづくりプラン

(地域活性化計画・改訂版)

Koriyama



Yoshida



Matsumoto



Sakurajima



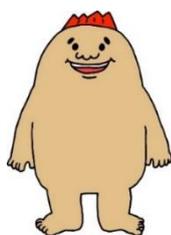
Kiire



鹿児島市

(目次)

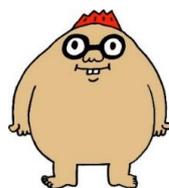
| | |
|-------------------------|----|
| I 総論 | 1 |
| 1 策定の背景 | |
| (1) 本市の特性 | 1 |
| (2) 合併地域の特性 | 1 |
| (3) 合併地域を取り巻く現状 | 2 |
| ①少子高齢化の進行による人口減少 | 2 |
| ②新型コロナウイルス感染症拡大による社会の変化 | 3 |
| 2 策定の主旨 | 4 |
| 3 事業の展開 | 4 |
| 4 位置づけ | 4 |
| 5 進捗状況の管理 | 5 |
| 6 計画期間 | 5 |
| 7 SDGsとの関連性 | 5 |
| 8 庁内関係課との連携 | 5 |
| II 各地域のプラン | 6 |
| 吉田地域 | 6 |
| 桜島地域 | 12 |
| 喜入地域 | 18 |
| 松元地域 | 24 |
| 郡山地域 | 30 |
| III 連携事業 | 36 |
| 資料編 | 37 |



リキニョン



マルニョン



メガニョン



ベビニョン

マグマシティPRキャラクター「火山の妖精“マグニョン”」

I 総論

1 策定の背景

(1) 本市の特性

本市は島津氏の城下町として発展し、「郷中教育」という独自の制度により、政治・経済だけでなく、文化芸術などさまざまな分野において優れた人材を輩出しているほか、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である「旧集成館」などにおける殖産事業が、明治以降の近代化に大きな役割を果たすなど、世界に誇りうる個性にあふれた歴史と文化が築かれています。

また、コンパクトな都市機能が集積した魅力ある都市空間を形成し、南九州の中核中核都市として着実な発展を遂げるとともに、郊外地域においては、市街地の眼前に広がる雄大な桜島や波静かな錦江湾の世界的にも稀有な自然景観をはじめ、多様な生き物がすみ自然環境などの豊富な資源を有しています。

さらに日本の南に位置し、古くからアジアをはじめとした海外との交流拠点として栄えてきました。日本列島を南北につなぐ新幹線の南の発着点である鹿児島中央駅をはじめ、九州縦貫自動車道や南九州西回り自動車道などの高速交通網、離島航路の発着機能を持つ鹿児島港や大型クルーズ船の接岸が可能なマリポートかごしまなど国内外の交流を支える基盤を備えており、国際線を有している鹿児島空港と短時間で結ばれています。

(2) 合併地域の特性

平成16年11月1日に、隣接する吉田町、桜島町、喜入町、松元町及び郡山町と合併し、本市は人口60万人の県都として新たな一步を踏み出し、旧町の地域を管轄する支所がそれぞれ設置されました。

合併した5地域（以下「合併地域」という。）は、自然、歴史や文化など豊富な資源を有しており、吉田地域のニガウリ、桜島地域の桜島大根、喜入地域のスイートコーン、松元地域の茶、郡山地域の早掘りタケノコなど、地域の特性を生かした農産物の生産のほか、吉田・郡山地域の畜産、桜島地域のブリ等の養殖などが行われています。

また、合併地域は市中心部から近く、通勤・通学、通院や買い物などの面で、日常生活圏は一体化しています。

合併後、合併特例債の活用などによるハード面の整備を進めるとともに、ソフト面では「ぐるっとかごしまスタンプラリー」をはじめとする地域間交流など、合併地域の特性を生かしつつ、「速やかな一体化と均衡ある発展」に向けて取り組んできました。

一方で、人口減少や高齢化の進行により、地域活動や農林水産業の担い手不足、空き家の増加などの活力低下も見られることから、「交流人口」・「関係人口^{※1}」の拡大や地域の資源・特性を生かした産業等の振興など、活力の維持・向上に向けた取組が急務となっています。

※1 総務省「関係人口ポータルサイト(<https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.html>)」によると、「定住者や観光客でもない、地域と多様に関わる人々」をいう。

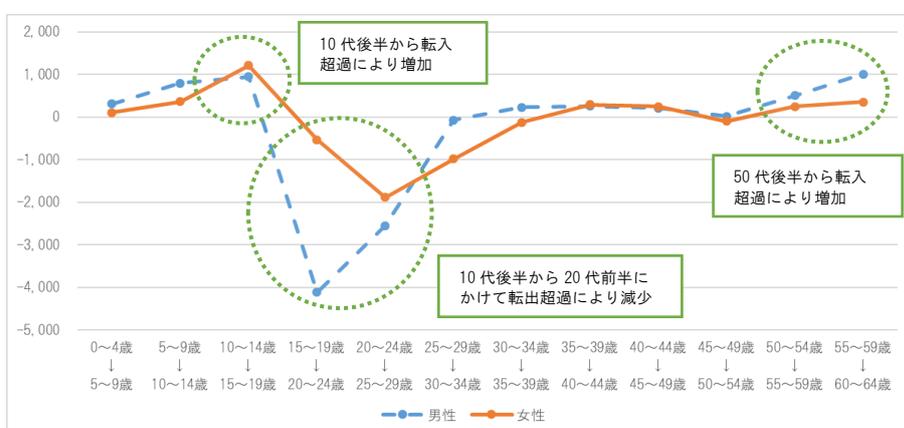
(3) 合併地域を取り巻く現状

①少子高齢化の進行による人口減少

「鹿児島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下「人口ビジョン」という。）」によると、本市は平成25年をピークに人口減少局面へ移行した可能性が高いとされています。また、同年には死亡数が出生数を上回り、自然動態が減少に転じています。さらに20代は転出超過となる傾向にあり、その多くが福岡市や熊本市、宮崎市などの九州圏や首都圏へ転出しています。

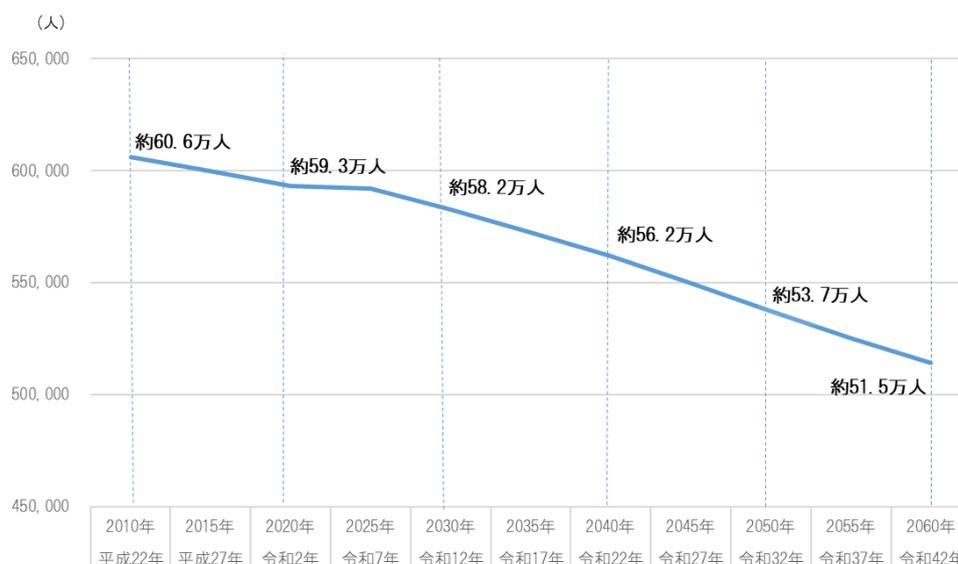
こうした現状を踏まえ、人口ビジョンにおける令和42（2060）年の本市人口の将来展望は51.5万人を維持することとしています。

【鹿児島市の年齢階級別人口移動の推移（平成17年→平成22年）】



資料：地域経済分析システム（RESAS）（出典：総務省「国勢調査」）

【本市将来人口の展望】



資料：平成22・27年及び令和2年は国勢調査による実績値。令和7（2025）年以降は人口ビジョンに基づく。

松元地域を除く4地域では人口減少に加え、人口に占める65歳以上の割合が桜島地域で5割を超えるなど、高齢化が急速に進行しています。

また、松元地域においてもベッドタウン化の進行により人口が増加する地区がある一方、周辺の地区では人口減少の影響が見られます。

【合併地域における年齢区別の人口割合（令和6年10月住民基本台帳人口）】

| 地域 | 人口 | 年齢区分 | | |
|------|----------|--------|---------|-------|
| | | 0歳～14歳 | 15歳～64歳 | 65歳以上 |
| 全市 | 586,916人 | 13.2% | 57.5% | 29.3% |
| 吉田地域 | 9,443人 | 10.2% | 47.8% | 42.0% |
| 桜島地域 | 3,444人 | 6.9% | 40.7% | 52.4% |
| 喜入地域 | 10,526人 | 11.0% | 47.5% | 41.5% |
| 松元地域 | 17,988人 | 20.0% | 56.6% | 23.4% |
| 郡山地域 | 6,718人 | 10.6% | 47.1% | 42.3% |

②新型コロナウイルス感染症拡大による社会の変化

新型コロナウイルス感染症拡大により、市民生活や地域経済、さらには人々の価値観や行動などあらゆる面が影響を受けました。

その一方で、ウェブ会議システムの普及などによる働き方の変化、自然豊かな環境への魅力、都市型の仕事中心から地方での生活重視へのライフスタイルの変容などにより、地方への移住や出身者の地元回帰の意向は引き続き高い状況にあります。

また、コロナ禍の長期化により、デジタル化が急速に進行し、オンライン消費の拡大などによる消費者の行動変容が進むとともに、コロナ禍により打撃を受けた観光業界においては、オンラインを活用した観光や「マイクロツーリズム^{※2}」などの新たな動きもありました。

令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し、社会経済活動の正常化が本格的に進んでいます。

※2 自宅から1～2時間程度の移動圏内の「地元」で観光する近距離旅行の形態をいう。

2 策定の主旨

合併地域においては、これまで「速やかな一体化と均衡ある発展」に向け、ハード・ソフト両面からの取組を進めてきました。

しかしながら、人口減少や新型コロナウイルス感染症による影響を受ける中、合併地域の活力の維持・向上を図るためには、合併地域が有する豊富な資源を住民や地域団体等とともにさらに磨き上げ、新たな魅力を創出していく必要があります。

「地域と共に創るまちづくりプラン（以下「プラン」という。）」は、住民とともに個性豊かな地域づくりを進めるため、若年層の地方回帰や観光等の新たな動向など社会経済情勢を踏まえ、にぎわいのある市街地に近く、周辺自治体と隣接する地理的な特性も生かしながら、交流人口・関係人口等の拡大や地域の特産品の販路拡大などの取組をさらに効果的に展開していこうとするものです。

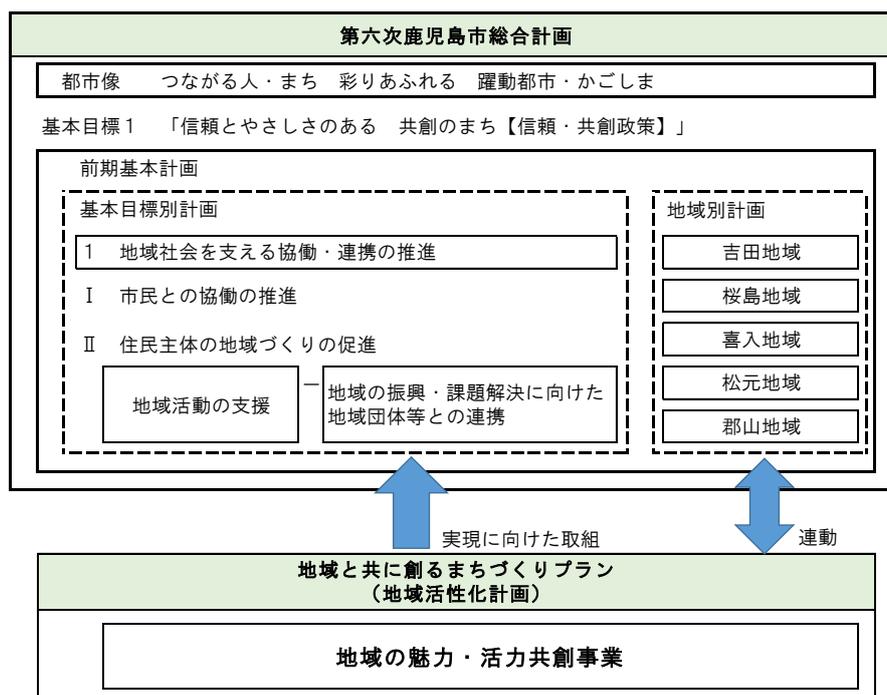
今回、これまでの取組の効果や課題等を踏まえ、令和5年3月に策定したプランを改訂しました。

3 事業の展開

各地域においては、地域の現状や課題を把握し、地域団体等による協議の場である地域懇話会などの意見をもとに、地域づくり推進課に配置する地域活性化アドバイザーの助言も踏まえ、各地域のプラン（6頁から35頁参照）にまちづくりの目標や方向性を定め、「地域の魅力・活力共創事業」として取組を展開することとします。

4 位置づけ

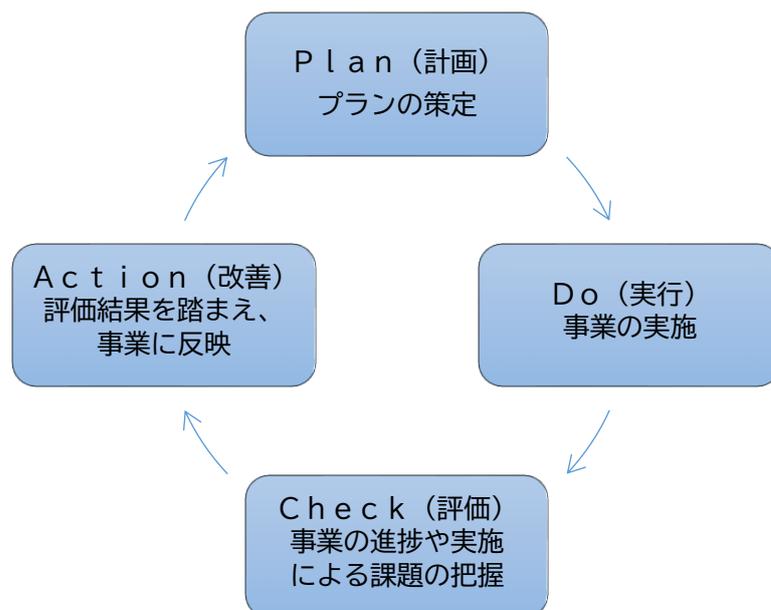
プランに基づく「地域の魅力・活力共創事業」の実施を通じて、第六次鹿児島市総合計画の基本目標「1 信頼とやさしさのある 共創のまち【信頼・共創政策】」の実現を図るとともに、同計画の地域別計画と連動し、合併地域の活力の維持・向上を目指します。



5 進捗状況の管理

各支所においては、プランに基づく「地域の魅力・活力共創事業」の実効性を上げるために、PDCAサイクル（Plan：計画、Do：実行、Check：評価、Action：改善）に基づく適切な進捗管理を図り、課題等を把握し、効果的な事業実施に生かします。

また、地域懇話会に計画策定、事業の企画立案、進捗状況の把握や実施による課題をそれぞれの段階で報告し、意見や提言をいただき、事業の効果的な実施に向けた改善等に生かします。



6 計画期間

PDCAサイクルによる各地域の取組の評価を踏まえ、概ね3年ごとにプランの見直しを行うこととします。

7 SDGsとの関連性

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、平成27年9月に国連サミットで採択された17のゴールからなる国際目標です。

このプランにおいても、特に関連性の高いゴールの達成に向け、魅力と活力のある地域づくりに取り組みます。



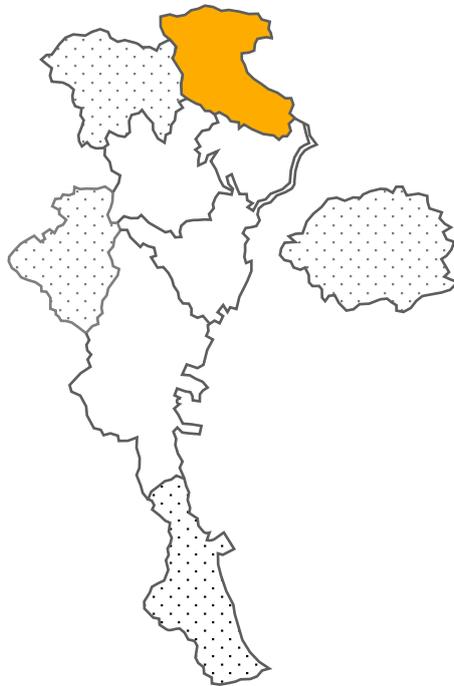
8 庁内関係課との連携

本市全体として人口減少が進行する中で、店舗の減少や公共交通機関の減便などによる生活利便性の低下への対応、移住希望者の支援などについて、全庁的に取り組んでいます。

また、地域懇話会などで出された意見や課題等について、庁内の関係課と共有するとともに、各事業の実施にあたっては、関係課が5地域で実施する事業や計画等とも連携して取り組みます。

Ⅱ 各地域のプラン

吉田地域



吉田地域

1 管内の現状

(1) 沿革

吉田地域は、本市の北部に位置し、河川沿岸や幹線道路沿道の平坦地と丘陵部の住宅団地、森林と山間部の農村集落で構成される、緑豊かな自然環境に恵まれた田園地域です。

古くは大隅国吉田院と称し、中世に大隅正八幡宮（現在の鹿児島神宮）の神領として吉田氏が領した後、永正14（1517）年から島津氏がこの地を治めるようになり、天正15（1587）年には^{あいら}始禰郡より鹿児島郡に編入されました。

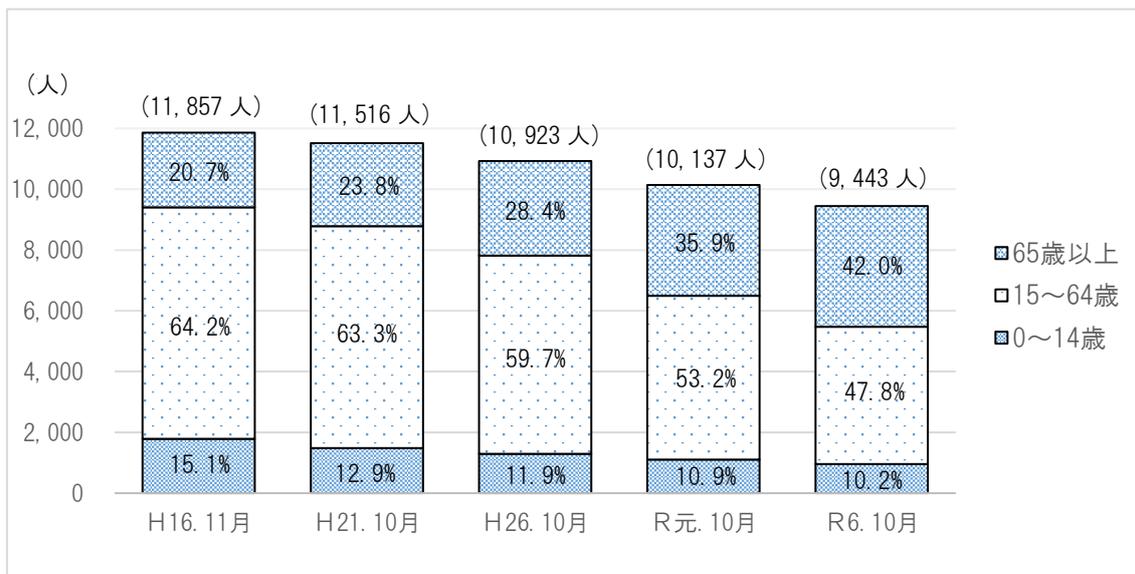
明治22年の市制町村制の実施に伴い、吉田郷が吉田村となり、昭和47年11月の町制施行により吉田村を吉田町に改称し、平成16年11月1日に桜島町、喜入町、松元町及び郡山町とともに鹿児島市と合併しました。

合併後は、吉田小学校の新築移転、本城、宮、吉田小学校区における地域活性化住宅（市営）や大原公園、市道奥之宇都線宇都トンネルなど生活を支える基盤を整備するとともに、SNSや交流事業などを通じた魅力の発信など、地域間交流の促進に取り組んでいます。

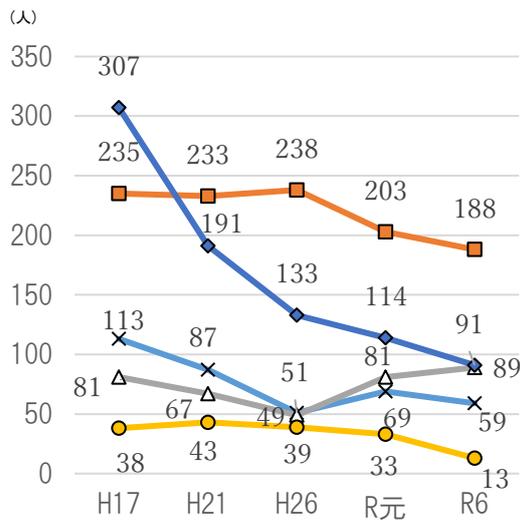
(2) 人口等の推移

地域内の人口は、合併以降減少傾向にあり、65歳以上の人口の割合は高くなってきています。また、児童生徒数については、ほとんどの学校で減少傾向となっており、特に同世代が一斉に入居した牟礼岡団地においては子の世代が多く転出したことにより、牟礼岡小学校の児童数は大きく減少しています。

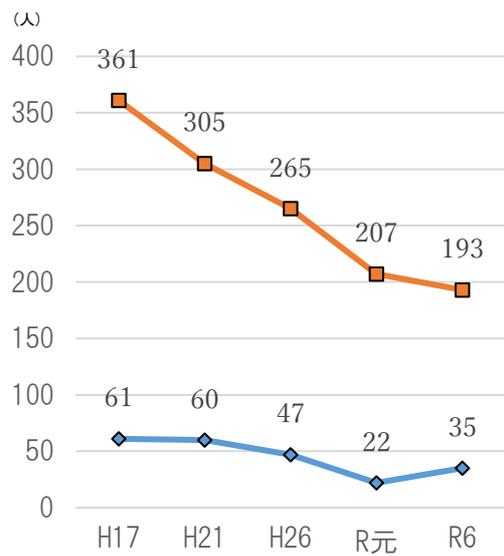
○住民基本台帳人口の推移



○児童・生徒数の推移（各年5月1日現在）



× 吉田小学校 □ 本名小学校
 △ 宮小学校 ○ 本城小学校
 ◇ 牟礼岡小学校



◇ 吉田北中学校 □ 吉田南中学校

(3) 主な地域資源

| | |
|--|---|
| <p>旧吉田小学校跡地（東佐多町・西佐多町）</p>  | <p>吉田地域北部に位置し、芝生広場は主に地域の高齢者のグラウンドゴルフ練習場や地元団体主催のイベントなどに利用されています。</p> <p>また、九州縦貫自動車道の始良インターチェンジから車で5分程度と交通の利便性にも富んでいます。</p> |
| <p>秋の田園風景（東佐多町）</p>  | <p>吉田地域は稲作が盛んで、地域内には多くの田が存在し、周りの山々とともにのどかな田園風景を形成しています。田に映り込む自然の様子や緑の豊かさ、穂が実り黄金色となった景色など、四季折々の風景を見ることができます。</p> |
| <p>田の神石像（東佐多町ほか）</p>  | <p>「タノカンサア」と親しみを込めて呼ばれる田の神は五穀豊穡の神で、その石像は農民たちの豊作を願う心から生まれ祭られたものです。</p> <p>鎮守神社境内にある「東下の田の神」は市の有形民俗文化財に指定されており、高さ120センチで左手におわんを持ち、今にも踊り出しそうな石像です。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>吉田文化体育センター（本城町）</p>  | <p>体育館は全国や県の各種スポーツ大会、合宿や講演会の会場として利用され、施設周辺には多目的屋内運動場、屋外運動場、テニスコートがあり、休日には地域外から多くの人が訪れます。</p> <p>また、周囲には桜やモミジの植栽もあり、春、秋の行楽時期には花見や紅葉狩りを楽しむ人でにぎわいます。</p> |
| <p>ニガウリ</p>  | <p>吉田地域で生産されるニガウリは「スタミナチャンピオン」の名で県内をはじめ、関西方面にも出荷されています。</p> <p>ビタミンが豊富で、食物繊維・カロチンが多く含まれる野菜で、山東菜、小松菜、ナバナやミズナなどの新鮮野菜とともに、本城町の「輝楽里よしだ館」でも購入できます。</p> |

2 令和5年度・6年度の実施内容

| 事業の展開 | 事業内容 |
|---------------------------|--|
| (1) 子どもが集う吉田の体験型施設の整備 | 「ペダルなし二輪遊具」を活用した体験、競技会と地元団体、事業者等によるマルシェイベントを通じて子どものあそびばづくりなどに向けた機運の醸成を図りました。 |
| (2) 子どもが楽しめる「吉田DEわくわく」の開催 | 田畑や川などの地域資源を活用した子どもも保護者も楽しめる郷土色あふれるイベントを通じて交流人口の拡大を図りました。 |
| (3) 子どもも喜ぶ吉田の弁当販売 | 吉田文化体育センターの利用者を対象とする、地域産品を活用した弁当などの企画販売に向けた、調査・研究や検討を通じて課題の洗い出し等を行いました。 |
| (4) 子どもと笑って吉田で暮らすための支援の検討 | 子ども食堂を軸にした新たな交流の場の提供や情報を発信するとともに、吉田地域で安心して笑って暮らすことができるようにするための取組の検討を行いました。 |

3 地域懇話会における主な意見や事業に対する評価等

- 子どもをターゲットとしたイベントを開催することにより、家族連れなど、多くの方が吉田に遊びに来てくれてよかった。
- イベント参加者に吉田の良さが伝わったのか、再び訪れたいと思ってもらえたのか分からない。
- イベントは、地域外の参加者と地域住民がともに楽しめるものであってほしい。また、地域住民と一緒に作り上げようとする気運がさらに高まるとよい。
- 自然の豊かさなど、吉田の良さをゆっくりと感じられる催しがあってもいいのではないか。
- 過疎化が進む中で、地域が主体的にイベント等を行うことが困難な地域もある。
- 吉田で飲食をすることが少ない。子どもを連れて出かけられる飲食店や、雨が降っても遊べる場所があればよいと思う。
- イベントは、地域外の方と地域住民がともに楽しめるものである方がよい。
- これまでは、行政主体でイベント等を運営してきたが、今後は、地元企業や商工会等と連携しながら、地域が主体となって運営していく必要がある。
- 自然を活用したイベントを実施することにより、吉田の魅力を発信することができたと思うが、一過性のものでなく参加者が継続して吉田と関わりを持てるような工夫が必要である。

4 管内の課題

- (1) 就学・就職などに伴う転出により若年層の人口が減少しており、地域の活力やにぎわいが低下しつつあります。
- (2) 高齢化や過疎化による後継者不足などにより、これまで行っていた町内会活動が困難となるなど、共助力が低下しつつある地域があります。
- (3) 緑豊かな自然環境やニガウリをはじめとする特産農産物など、地域資源の魅力が十分に生かされていません。
- (4) 宅地造成や企業立地に適さない山間部や交通不便地等に未利用地があるほか、農業従事者の高齢化などにより、使われていない農地が増加傾向にあります。

5 課題解決に向けた方向性等

(1) 目標

「子どもの笑い声響く 吉田のまちづくり」を理念として、子育て世代をはじめとした交流人口・定住人口の拡大に向けた事業を展開することで、地域の活力や潤いを創出するとともに、住民が相互に助け合い安心して暮らせるにぎわいのある地域づくりを目指します。

(2) 方向性

子育て世代の多い吉野地域や始良市などをメインターゲットに、豊かな自然や特産物など地域資源を活用した事業を展開し、交流・定住人口の拡大や稼ぐ力の創出を図るとともに、住民が安心して地域に住み続けられる環境を整えるため、地域主体による共助の取組を支援し、地域の活性化を図ります。

(3) 事業の展開

①地域資源や地の利を生かしたイベントの開催

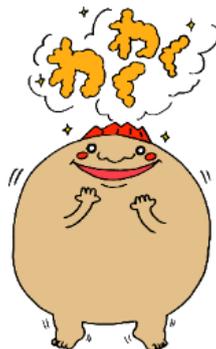
吉野地域や始良市などの子育て世代をメインターゲットに、田畑や山、川といった地域資源を活用して、「吉田DEわくわく」ちびっこフェスタや「親子ふれあい農園」などの事業を実施することにより、交流人口の拡大を図ります。

②吉田の魅力発信

支所公式SNSやイベント等を通じて、地域の食や自然、特産品など、ほかにはない吉田の魅力を発信し、地域に対する知見や興味を深めます。

③吉田で笑って暮らすための支援の検討

移住希望者が円滑に移住生活を始められる事業の展開や地域の主体的な交流、助け合いの支援など、吉田地域で安心して笑って暮らすことができる取組の検討を行います。



Ⅱ 各地域のプラン

桜島地域



桜島地域

1 管内の現状

(1) 沿革

桜島地域は、本市の東部に位置し、中心部から錦江湾を隔てて約4キロメートルの近距離にあり、地域内のほとんどが溶岩原、山林及び原野で、住宅地は海岸線に沿って帯状に続いています。霧島錦江湾国立公園と県の名勝に指定されており、自然海岸や溶岩原などの独自の貴重な自然環境や景観資源を有しています。

また、大隅半島と陸続きになった大正3年の噴火など、現在も活発に噴火活動を続けており、住民は火山と共存しながら生活しています。

明治22年の市制町村制の実施に伴い、桜島郷が西桜島村と東桜島村に分かれ、東桜島村は昭和25年10月に鹿児島市と合併しました。また、西桜島村は昭和48年5月の町制施行により桜島町に改称し、平成16年11月1日に吉田町、喜入町、松元町及び郡山町とともに鹿児島市と合併しました。

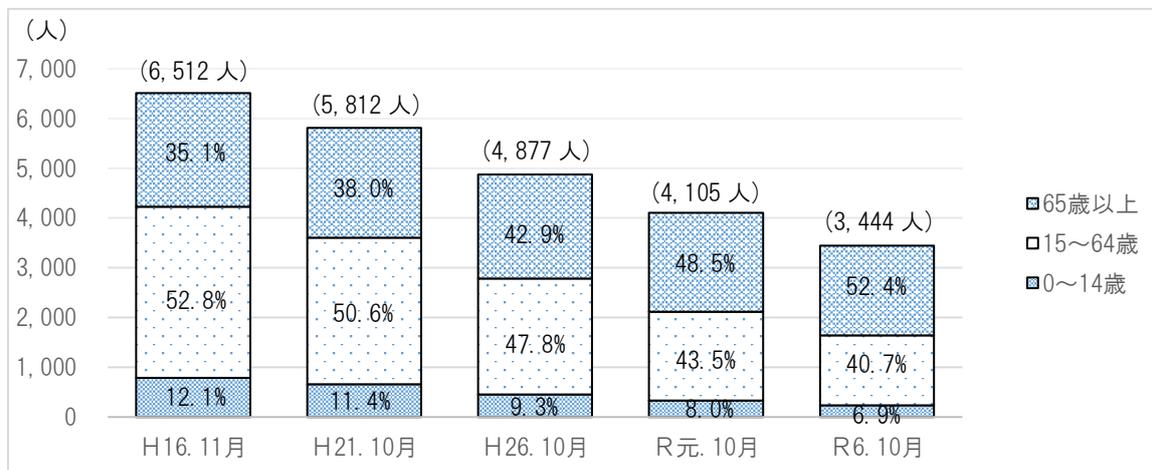
合併後は、改新交流センターの整備や各地域に設立された地域コミュニティ協議会の活動支援など、地域活動の充実を図りました。また、平成31年4月には桜島地域全体を所管する桜島支所を設置し、災害時における指揮系統の一元化による防災体制強化を図るとともに、地域一体となった地域振興への取組を支援し、魅力の発信や地域間交流に取り組んでいます。

さらに、地域の特性を生かした桜島ならではの教育を目指し、地域内のすべての小・中学校を統合した義務教育学校「桜島学校」が設置される予定です。

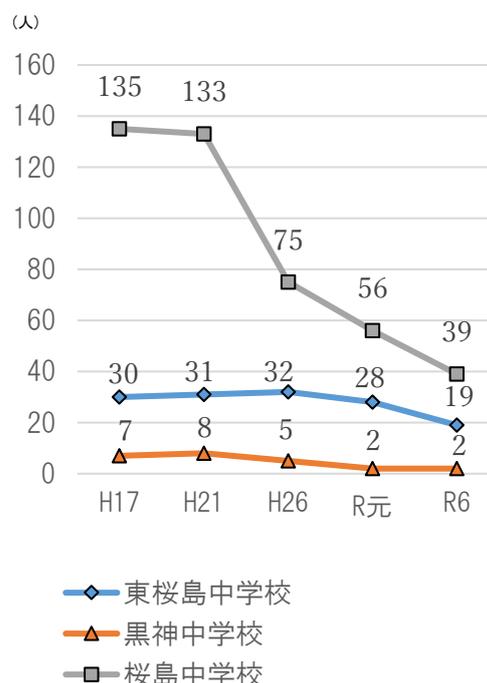
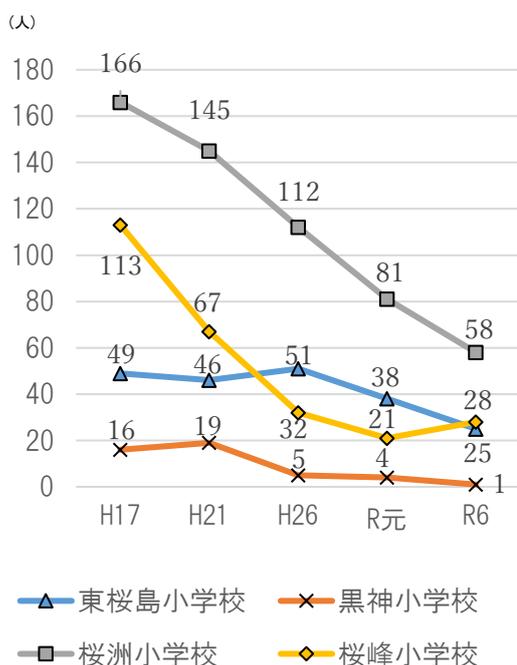
(2) 人口等の推移

地域内の人口は、合併時と比較するとほぼ半減し、人口減少が急速に進んでいます。特に、人口に占める65歳以上の割合は50%を超えており、全市で最も高齢化が進む地域となっています。また、児童生徒数もほとんどの学校で減少傾向にあります。

○住民基本台帳人口の推移



○児童・生徒数の推移（各年5月1日現在）



(3) 主な地域資源

桜島の特産物（※左上から時計回りに桜島小みかん、桜島大根、ピワ、椿油）



火山と共存して生産される桜島の特産物。小さい果実の中に香りと甘さが詰まった「桜島小みかん」、鹿児島を代表する伝統野菜である「桜島大根」は全国的に有名です。

また、海の見える斜面で栽培されるみずみずしい桜島の「ピワ」、降灰に負けず赤い花を咲かせる椿から搾油される桜島の「椿油」など、農作物の生産には厳しい環境の中でも大切に育てられ、桜島の産業として受け継がれています。

桜島フェリー



令和6年に運航開始から90年を迎え、長年にわたり人々の暮らしを支える桜島フェリー。生活の重要なパイプラインの役目だけでなく観光ルートの主役として活躍しています。桜島地域と鹿児島市街地を15分で結ぶ海のバイパスとして多くの人々に利用されています。

| | |
|--|--|
| <p>地域の飲食店（写真：さくら市）</p>  | <p>人口減少や高齢化による事業休止などにより、地域内の店舗数は減少しているものの、近年はカフェやベーカリーショップ、キッチンカーなどの新たな店舗の開店も見られ、地域の資源となっています。</p> <p>また、地域の飲食店等が連携して島内でマルシェを開催するなど新たな動きがみられます。</p> |
| <p>新たな宿泊施設（写真：i k oてらす）</p>  | <p>自然湧出する温泉を備えた既存の観光ホテルのほか、近年では桜島を体感できるゲストハウスや民泊施設が開業しており、地域住民と観光客がつながる新たな交流の拠点として期待されています。</p> <p>令和6年2月に完成した「i k oてらす」は、空き家を改装したゲストハウスで、桜島の暮らしや文化などの魅力体験や、移住を検討するための施設として活用されています。</p> |
| <p>豊富な観光資源</p>  | <p>桜島の火山や溶岩原など独自の貴重な自然環境や景観資源、温泉など豊富な観光資源を有し、毎年多くの観光客が訪れています。</p> |

2 令和5年度・6年度取組内容

| 事業の展開 | 事業内容 |
|-------------------------|---|
| (1) 地域の飲食店等の連携による魅力発信 | 地域の飲食店等が連携し、デジタルパンフレットやSNS等を活用した情報発信の強化を図るとともに、イベントを開催しました。 |
| (2) 桜島の魅力体験に取り組む地域団体の支援 | 関係人口・定住人口の拡大につなげるため、地域団体が行う桜島の暮らし・文化などの魅力体験やお試し移住を含む長期滞在の取組を支援しました。 |
| (3) デジタル化による生活利便性の向上 | デジタルデバイドの解消を図るために、地域のデジタルサポーターを養成し、高齢者等向けデジタル教室を実施しました。 |

3 地域懇話会における主な意見や事業に対する評価等

- 桜島の椿油は特産物の一つだと思う。油単体でも価値があるが化粧品や食用品への加工など需要があるが供給が少ない。
- 椿も含め桜島で小規模の農業をしている方は本業にはできない。加工して販売までできるようになれば生産量を増やせる。
- 飲食店の連携イベントは事業者主体で自走化するためのシステムを構築する必要がある。
- 島外イベント出店は桜島の魅力発信をするいい機会だが事業者個人では限界がある。島内イベントの回数を増やすなど参加しやすい環境を整え、定期的を開催すべきである。
- デジタルの活用で利便性が高まると高齢者等の生きがいにもつながってくる。利便性と生きがいが上手く重なるような展開ができるとよい。
- デジタル使用に慣れてくると個々で理解できないところが違ってくる。それぞれのレベルに合わせてサポートしていく必要がある。
- 経済的な事情でデジタルに対応できない方々もいると思う。取り残さないようにするにはどうするか考えなければならない。
- マルシェの開催を知らない方々もいた。情報発信の方法を工夫すべきだ。
- とてもバランス良く3つの事業ができています。将来的にはすべてがリンクするようにしてほしい。
- 懇話会から携わり、事業の成果が上がったことがうれしかった。

4 管内の課題

- (1) 人口減少や高齢化等により既存の飲食店や観光等の事業者が減少する一方で、新たな店舗の開業が見られますが、事業者のつながりの機会が少なく、十分に連携できていません。
- (2) 地域内の店舗減少や路線バス、桜島フェリーの減便等により、高齢者等の買い物や通院など、生活における利便性が低下しています。
- (3) 豊富な観光資源を有している一方で、訪問者が桜島の暮らしや文化などの魅力を体験する場が少なく、地域の魅力が十分に生かされていません。
- (4) 桜島小みかん、桜島大根、ピワなど特産農産物を生産していますが、農家の高齢化や減少により、経営規模が縮小し使われていない農地が増加しています。

5 課題解決に向けた方向性等

(1) 目標

地域の活力とにぎわいを創出し、地域住民が桜島地域に住んでよかった、住み続けたいと思える地域を目指します。

(2) 方向性

地域の事業者間の連携を図り、自走できる体制の構築に取り組むとともに、地域資源や空き家などを活用した桜島の魅力を体感するコンテンツを提供し、関係人口の拡大につなげます。また、デジタルを活用した生活利便性の向上を推進します。

(3) 事業の展開

①地域の飲食店等の連携による魅力発信

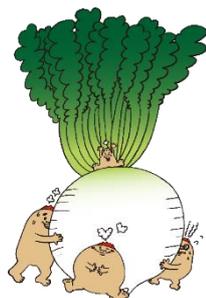
島内でのマルシェの開催や各種イベントへの参加で連携を活性化します。また、SNSなどを活用した情報発信やマルシェ開催など、飲食店等が自ら魅力を発信できる体制を構築します。

②桜島の魅力体感コンテンツの創出

桜島地域で活動する地域団体や事業者などによる地域資源を生かした桜島の魅力を体感するコンテンツの創出を支援します。

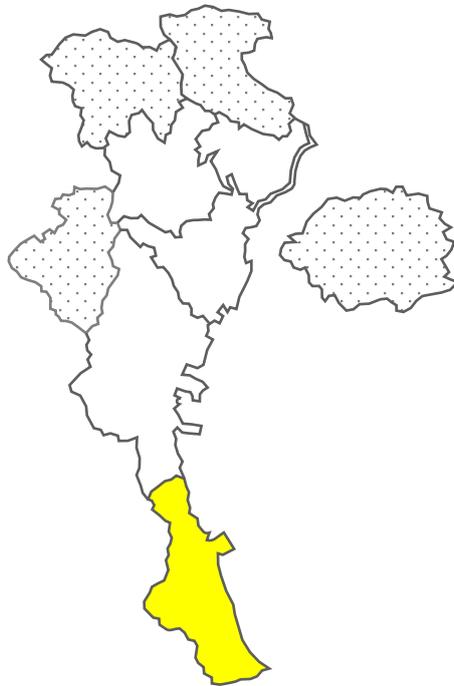
③デジタル化による生活利便性の向上

高齢者などのデジタル弱者へデジタルツールの知識の向上と活用能力を高めるための支援に取り組み、デジタルデバイドの解消と生活利便性の向上を図ります。



Ⅱ 各地域のプラン

喜入地域



喜入地域

1 管内の現状

(1) 沿革

喜入地域は、本市の南部に位置し、約8割を占める山地と錦江湾に沿った平坦地で構成され、錦江湾に並行して国道226号やJR指宿枕崎線が通っています。南九州市と接する西の山々は分水嶺になっており、そこを源とする10余りの河川は錦江湾に注ぎ、流域には集落と水田が広がります。また、昭和44年に石油備蓄基地が操業を開始しました。

「喜入」の名は、応永21(1414)年に島津久豊がこの地で上げた戦勝を祝して「給黎」を改めたのが最初です。給黎城の周囲には武士たちが暮らす「麓」が築かれました。喜入旧麓地区は当時の雰囲気が残っており、令和元年に日本遺産「薩摩の武士が生きた町」の構成文化財として認定されました。

明治22年の市制町村制の実施に伴い喜入村となり、昭和31年10月の町制施行により喜入村を喜入町に改称し、平成16年11月1日に吉田町、桜島町、松元町及び郡山町とともに鹿児島市と合併しました。

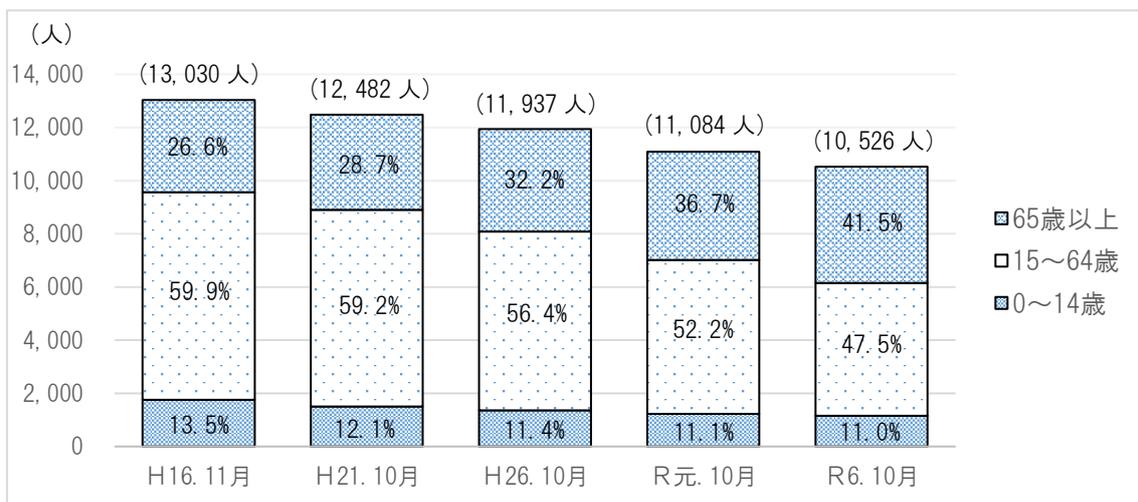
合併後は、平成24年11月に観光農業公園「グリーンファーム」、令和3年10月からプロサッカーチーム「鹿児島ユナイテッドFC」専用のトレーニングセンター「ユニータ」の供用開始、令和6年3月に喜入旧麓交流館「陽だまり」がオープンするなど、喜入地域の活性化だけでなく本市のスポーツ振興や交流人口の拡大につながる取組が進んでいます。

(2) 人口等の推移

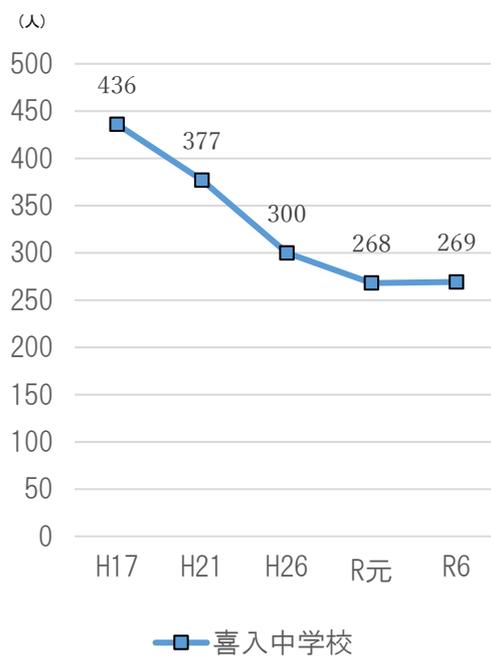
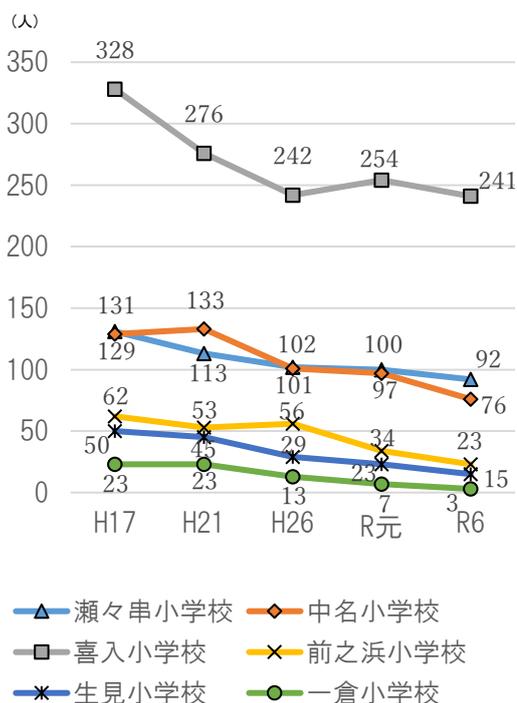
地域内の人口は、合併以降減少傾向にあり、特に15歳から64歳の人口が占める割合が低下しており、地域の産業を支える担い手の不足が懸念されます。

一方、65歳以上の人口は増加傾向にあり、人口に占める割合も41.5%となるなど、人口減少に加え、少子高齢化が急速に進行しています。

○住民基本台帳人口の推移



○児童・生徒数の推移（各年5月1日現在）



(3) 主な地域資源

| | |
|--|---|
| <p>喜入旧麓地区（喜入町）</p>  <p>香梅ヶ淵</p>  <p>陽だまり</p> | <p>湧水を利用した水路、往時の面影を残す門柱や生垣、石塀が連なるなど、武家屋敷跡の雰囲気を感じることができます。</p> <p>また、豊かな自然と一体となった水辺の景観を望むことができる香梅ヶ淵や、文禄4（1595）年から270年あまり喜入を治めた肝付家歴代の墓があり、市の景観形成重点地区に指定されています。</p> <p>令和6年3月には喜入旧麓交流館「陽だまり」がオープンしました。</p> |
| <p>JR喜入駅（喜入町）</p>  | <p>地域住民の通勤や通学に利用される喜入駅は、縁起のよい駅として親しまれており、切符に「合格祈願」や「安産祈願」などの記念スタンプを押すことで「喜びが入る」として多くの方に幸せを運んでいます。</p> <p>令和2年5月より無人化された駅舎を活用し、にぎわいのある交流拠点を整備します。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>鹿児島ユナイテッドFCトレーニングセンター「ユニータ」(喜入町)</p>  | <p>旧喜入いきいきふれあい広場跡地に整備され、天然芝2面、人工芝1面等を有しています。</p> <p>令和6年度には喜入中名町の旧ホテル跡を活用したクラブ寮を整備し、令和7年4月末にはユニータにクラブハウスが完成予定です。</p> |
| <p>生見海水浴場、ウミガメ上陸・産卵地(喜入生見町ほか)</p>   | <p>白砂青松の遠浅の海岸で、夏は海水浴、秋にはマルシェやカヌー体験会が開催され、家族連れ等で賑わいます。</p> <p>また、喜入地域の海岸では、例年5月から7月にかけてウミガメの上陸・産卵が確認され、8月から9月にかけてふ化します。</p> <p>地域の子どもたちと一緒に、ふ化した子ガメが無事に海に帰るのを見守るなど、地域で保護活動を行っています。</p> |
| <p>特産品(スイートコーン、オクラ等)</p>  | <p>5月には喜入産スイートコーンが旬を迎えます。糖度が高く、生でも食べられるスイートコーンは、マリソピア喜入やグリーンファームで購入することができ、地域内外から人気のある特産品です。</p> <p>他にもオクラや早生みかん等が喜入の農業を支えています。</p> |

2 令和5年度・6年度の実施内容

| 事業の展開 | 事業内容 |
|-----------------------|--|
| (1) 空き家を活用した交流拠点の整備 | 旧麓地区(日本遺産)に整備した喜入旧麓交流館「陽だまり」の運営支援を行いました。 |
| (2) 「喜び入るまち」のブランディング | 喜入地域で長年親しまれてきたフレーズ「喜び入るまち」を用いて作成したイラスト等を活用して、地域の知名度向上を図りました。 |
| (3) JR喜入駅を活用した交流拠点の整備 | 喜入地域の交通の拠点であるJR喜入駅において、交流拠点の整備を行いました。 |

3 地域懇話会における主な意見や事業に対する評価等

- 概ね3年の間では、新しい事業をするのではなく、今の事業をしっかりサポートしていく形ができればよいと思う。
- 喜入旧麓交流館「陽だまり」は話題になっているが、持続させるためにはこれからもフォローが大切だと思う。
- 喜入駅の活用については話題性のある駅になるよう、鹿児島ユナイテッドFC・JR九州・地域で協力していきたい。
- 喜入駅を拠点に喜入旧麓交流館「陽だまり」や各校区をリンクして、喜入地域全体で連携して取り組める仕組みを作ってほしい。
- スポーツチームを推しているところに行くとなるとファンでなくてもわくわくするので、“喜び入るまち”とあわせて、鹿児島ユナイテッドFCをあらゆる面で推すといい。
- 地域で子育てをサポートし、子どもたちがいることで地域が明るくなり、また、大人になって地域に残ってくれることで、10年、20年後の活性化にもつながると思う。
- 喜入旧麓交流館「陽だまり」はマルシェを開催するなどして、来場者も多く、いい活動ができています。
- イベントで“喜び入るまち”のイラスト缶バッジを配布したが、子どもたちがとても喜んでくれてイベントが盛り上がった。

4 管内の課題

- (1) 人口減少等による空き家や使われていない農地が増加傾向にあるほか、地域づくりを担うリーダーの高齢化と後継者不足などにより、活力やにぎわいが低下しつつあります。
- (2) 喜入旧麓地区やグリーンファーム、ユニータ、JR喜入駅など、数多くの地域資源に恵まれている一方で、認知度が低く、地域の魅力が最大限に生かされていません。

5 課題解決に向けた方向性等

(1) 目標

空き家や使われていない農地の活用、地域づくりのリーダーとなる若者の育成、地域の認知度や回遊性の向上などの課題解決に向け、地域関係者と広く連携し、特色ある資源などを生かした個性豊かな取組を通じた地域づくりを進めます。

(2) 方向性

鹿児島ユナイテッドFCやJR九州などの事業者等と連携し、ユニータやJR喜入駅などの資源を活用した回遊性の向上などに取り組み、交流人口・関係人口の拡大を図るとともに、空き家を活用した喜入旧麓交流館「陽だまり」の運営を支援し、地域の活性化を図ります。

(3) 事業の展開

① 空き家を活用して整備した交流拠点の運営支援

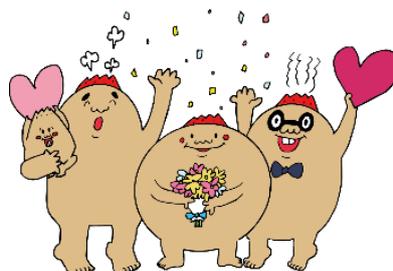
喜入旧麓地区にある空き家を活用して整備した交流・情報発信の拠点である喜入旧麓交流館「陽だまり」の運営を支援し、若者と連携した取組や観光ガイド、飲食の提供等のおもてなしを通じ、訪問者の満足度向上と交流人口の拡大による地域の活性化を図ります。

② 「喜び入るまち」のロゴを活用した取組

喜入地域で使われているフレーズ「喜び入るまち」のロゴやイラストを活用した地域PRやグッズ制作等に取り組み、喜入の魅力や認知度のさらなる向上を図ります。

③ JR喜入駅を活用した交流拠点の整備

喜入地域の交通の拠点であるJR喜入駅において、商品の販売やレンタサイクルなどの機能を備えた交流拠点を整備し、回遊性の向上と地域の活性化を図ります。



Ⅱ 各地域のプラン

松元地域



松元地域

1 管内の現状

(1) 沿革

松元地域は、本市の西部に位置し、多くの丘陵と溪谷からなり、河川沿岸や幹線道路沿道の限られた平坦地と主に山林で構成されています。また、JR鹿児島本線、南九州西回り自動車道や県道といった幹線道路などの交通基盤が充実しており、幹線道路沿いの春山・石谷地域では住宅団地が建設されるなどベッドタウン化が進んでいます。

石谷町の永福寺には市指定文化財の「町田家の墓」が残されています。島津氏の血筋である町田家は、新納家・樺山家と共に島津氏の三大権門と呼ばれ、石谷を領していました。

明治22年の市制町村制施行の実施に伴い、上谷口村、福山村、春山村、直木村、入佐村及び石谷村を統合し、上伊集院村が誕生しました。また、昭和35年4月に松元村への改称と同時に町村制施行により松元町と改称し、平成16年11月1日に吉田町、桜島町、喜入町及び郡山町とともに鹿児島市と合併しました。

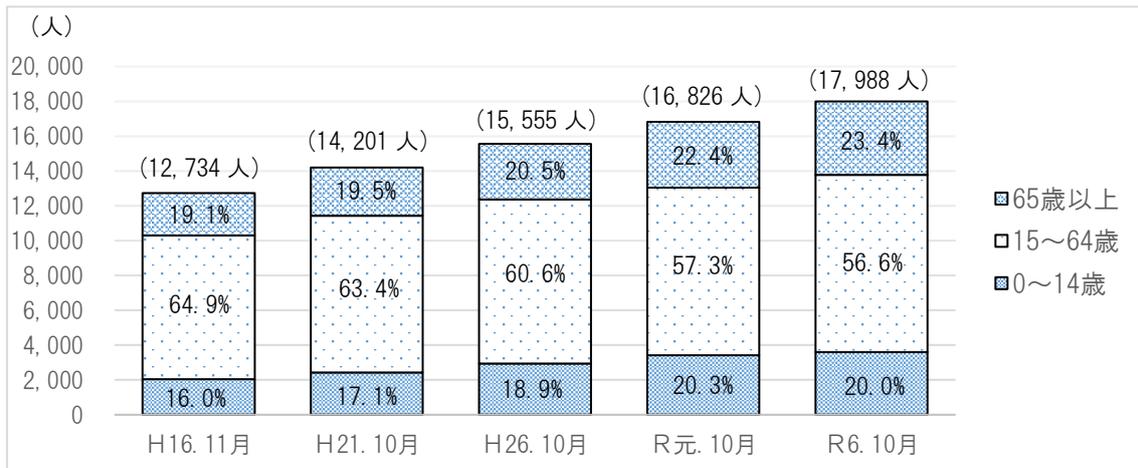
合併後は、豊かな自然環境の中で松元ダムの水を利用した茶などの生産に引き続き取り組むほか、平成27年3月には春山町に都市農村交流センター「お茶の里」が完成するなど都市と農村の交流の促進に取り組んでいます。

(2) 人口等の推移

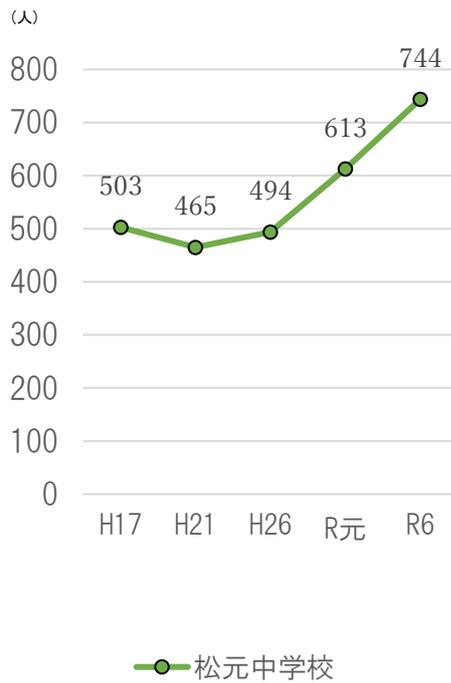
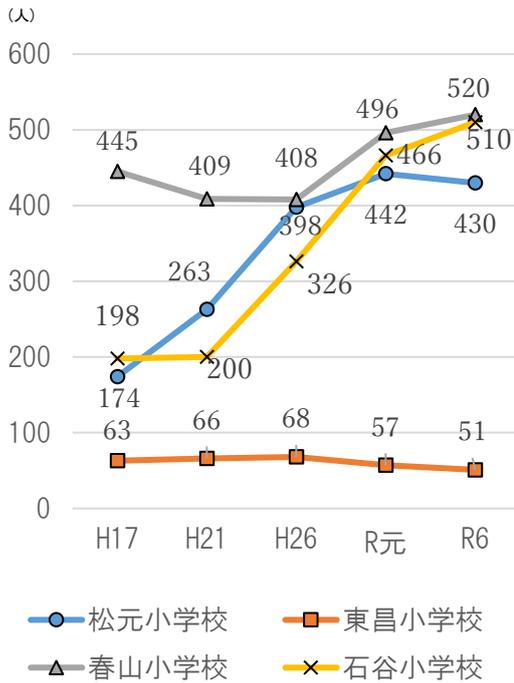
松元地域は年少人口比率が全市で最も高く、人口も増加傾向にあります。

校区別に見ると、子育て世帯向けの県営住宅などが立地する松陽台町を含む松元小学校校区や、ベッドタウン化が進む春山・石谷小学校校区においては、人口・児童数ともに増加傾向にあります。東昌小学校校区においては、住宅建設などに制限がある農用地区域が多いことなどから、人口減少と高齢化が進み、地域内で二極化しています。

○住民基本台帳人口の推移



○児童・生徒数の推移（各年5月1日現在）



(3) 主な地域資源

| | |
|---|---|
| <p>都市農村交流センター「お茶の里」(春山町)</p>  | <p>都市と農村の交流を促進し、農村地域の活性化を図るための施設です。施設内には茶をはじめ地元の新鮮野菜等を販売する直売所や飲食施設、茶手もみやそば打ち体験等もできる交流室、地域の特産物などを紹介する情報スペースのほか、芝生広場や子どもたちに人気の遊具等もあり、気軽にグリーン・ツーリズムを楽しめます。</p> |
| <p>松元平野岡体育館（上谷口町）</p>  | <p>卓球競技等に適した無風空調設備を完備した体育館のほか、多目的屋内運動場やグラウンド・テニスコートなどのスポーツ施設と温泉が併設され、スポーツで汗をかいた後、リフレッシュすることができます。 また周辺には数百本の桜が植えられ、見ごろには多くの人でにぎわいます。</p> |
| <p>町田久成 (1838年～1897年)</p>  <p>【鹿児島県立図書館所蔵】</p> | <p>石谷を治めていた町田家の長男として生まれ、慶応元(1865)年に薩摩藩英国留学生を率いて英国へ渡りました。帰国後、廃仏毀釈の嵐で文化財破壊が広がる風潮を憂い、文化財保護の重要性と博物館の建設を建議し、東京国立博物館の初代館長に就任しました。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>茶畑</p>  | <p>松元地域では、古くから茶が特産物として栽培されており、江戸時代には島津氏に献上された記録が残っています。</p> <p>寒暖差の激しい松元地域の気象条件により、味・香り・色が優れているのが特徴です。</p> |
| <p>県立松陽高等学校</p>  | <p>昭和58年4月、多様なコースを有した普通科高校として開校し、平成7年度には音楽科・美術科が新設され、本県の高等学校芸術部門の拠点校となりました。</p> <p>文化系の部活動は大会やコンクールで高い実績を収めるほか、体育系の部活動も活躍しています。</p> |

2 令和5年度・6年度の実施内容

| 事業の展開 | 事業内容 |
|--------------------------|--|
| (1) 松元の魅力を発信するイベント等の開催 | 特産品である茶の魅力を発信をメインテーマとした「まつもと まるっとマルシェ」を開催しました。 |
| (2) スポーツを活用した交流の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・松元地域で親しまれてきた卓球を生かした地域内外の交流促進に取り組みました。 ・フットサルなどの取組状況や将来性を調査し、スポーツを生かした活性化の方策を検討しました。 |
| (3) 地域の団体や高校との連携による魅力の創出 | <ul style="list-style-type: none"> ・松元地域の偉人である町田久成の功績をPRする住民活動を支援しました。 ・県の高等学校芸術部門の拠点校である松陽高等学校と地域の小学校の連携による作品制作や、同校生徒の作品展覧会等を通して、地域への芸術の浸透と住民相互の交流を図りました。 |

3 地域懇話会における主な意見や事業に対する評価等

- 事業の効果が実感できるような取組であれば、自主的に協力する住民が増え、住民が主体的に取り組む気運が高まるのではないかと。
- 松元地域では、弓道やフットサルなど卓球以外のスポーツも取り組まれているため、他のスポーツの活動状況等をもっと情報発信し、地域内で活動する団体を上手く活用しながら、交流人口を増やせたらいい。
- 松陽高等学校と連携して事業に取り組んだことで、同校の芸術部門の取組を知ることができ、地域にとって身近な存在となったので、継続して取り組んでほしい。

- プランに掲げる目標に向けて行政と地域が共に取り組んでいる事業であるから、各イベント等が一体的に実施されていることを、参加者や従事者等に分かりやすく示すことが必要である。
- これまでの取組のなかで構築した地域活性化のスキームや協力者（人・団体等）との連携を維持・発展させながら、持続可能な取組となるよう、内容や規模の見直し等を含めた検討が必要である。
- 令和5年度、初開催ながら5,000人を超える来場者で賑わった「まつもと まるっとマルシェ」は、特産品の茶をはじめとする松元の地域資源や魅力を地域内外に効果的に発信したほか、交流人口の拡大に寄与した。
- 茶業振興会、まちづくり協議会、松陽高等学校、地元の出店者や出演者等が一堂に会したマルシェをはじめ、各取組に多くの地域住民や団体等が関わることで、松元地域の一体感が醸成された。
- 地域の小学生等が卓球に触れる機会を提供することにより、卓球への関心が高まるとともに、スポーツを通じた住民同士の交流促進が図られた。
- 卓球イベント会場で、まつもと茶のふるまい等のPR活動を行うことで、地域内外からの来場者に対し、まつもと茶の魅力を伝えることができた。
- 町田久成の顕彰に取り組む「～町田久成から未来へ～石谷夢プロジェクト」の活動を支援し、その功績を地域内外へ発信することで、交流人口の拡大につながった。
- 松陽高等学校美術科と連携した小学生向けの絵画教室や、同科生徒の作品展覧会「松陽アートinまつもと」を通じて、多くの地域住民に芸術に触れる機会を提供することができた。

4 管内の課題

- (1) 子育て世代等の流入による人口の増加が見られる一方で、価値観や生活様式の多様化による地域のつながりや関心の希薄化が見られ、地域の一体感が低下しています。
- (2) 松元地域は市内における茶の主要産地ではありますが、県内市町村別の荒茶の生産量は6位で、シェア率も4%程度にとどまっており、ブランド力や発信力の強化が求められています。
- (3) 合併以前は平成7年の「卓球のまち宣言」のほか、地域内でスポーツ大会も数多く開催されるなど、住民の健康づくりやコミュニティの形成にスポーツが寄与していましたが、合併後は活動が低調に推移しています。

5 課題解決に向けた方向性等

(1) 目標

住民と行政が共創し、松元地域の活性化を推進し続けられるような仕組みを構築するとともに、人と人がつながりを感じられる一体感のある地域づくりに取り組みます。

(2) 方向性

特産品である茶をはじめとした地域資源のほか、スポーツ、文化・芸術を活用することで、にぎわいの創出や住民相互の交流、地域の活性化を推進します。

(3) 事業の展開

①松元の魅力を発信するイベント等の開催

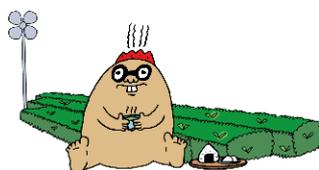
地域団体等が中心となって「まつもと まるっとマルシェ」を開催し、特産品の茶を活用した料理の企画販売や、スポーツを活用した交流促進の取組との連携、ステージイベント等を通じて、松元の魅力をさらに深く広く発信し、地域内外の交流を促進します。また、新たなイベントの目玉などを地域とともに創出することで、地域の一体感の醸成を図りながら、持続可能なイベントとするための創意工夫に努めます。

②スポーツを活用した交流の促進

Tリーグ公式戦が開催できる体育館もあることや、地域で活動するスポーツクラブ等の状況を踏まえ、卓球やフットサルなどのスポーツを生かした地域内外の交流促進に取り組みます。また、ダンスなど地域における他のスポーツの取組状況や将来性を調査・研究します。

③地域の団体や高校との連携による魅力の創出

松陽高等学校の生徒と小学生によるアート作品の制作・展示等に取り組み、地域に芸術の浸透を図ります。また、石谷町に縁のある「町田久成」の功績を顕彰する団体の取組を支援し、魅力の創出を図るとともに、地域内外への情報発信を行います。



Ⅱ 各地域のプラン

郡山地域



郡山地域

1 管内の現状

(1) 沿革

郡山地域は、本市の北西部、甲突川の上流部に位置し、東に花尾山・三重岳、北に八重山があり、河川沿岸や幹線道路沿道の限られた平坦地と主に山地で構成されています。

また、地域内は八重の棚田や花尾神社など、自然、景観、歴史、温泉などを有しており、森林や農地などの豊かな自然環境の中で、ニガウリや早掘りタケノコなどの特産農産物等の生産、子牛生産を主体とした肉用牛経営や酪農が行われています。

明治22年の市制町村制施行の実施に伴い、郡山村、西俣村、油須木村、厚地村、東俣村及び川田村が統合し、郡山村が誕生しました。また、昭和31年9月に郡山村と下伊集院村の一部（有屋田・嶽）の合併により郡山町に改称し、平成16年11月1日に吉田町、桜島町、喜入町及び松元町とともに鹿児島市と合併しました。

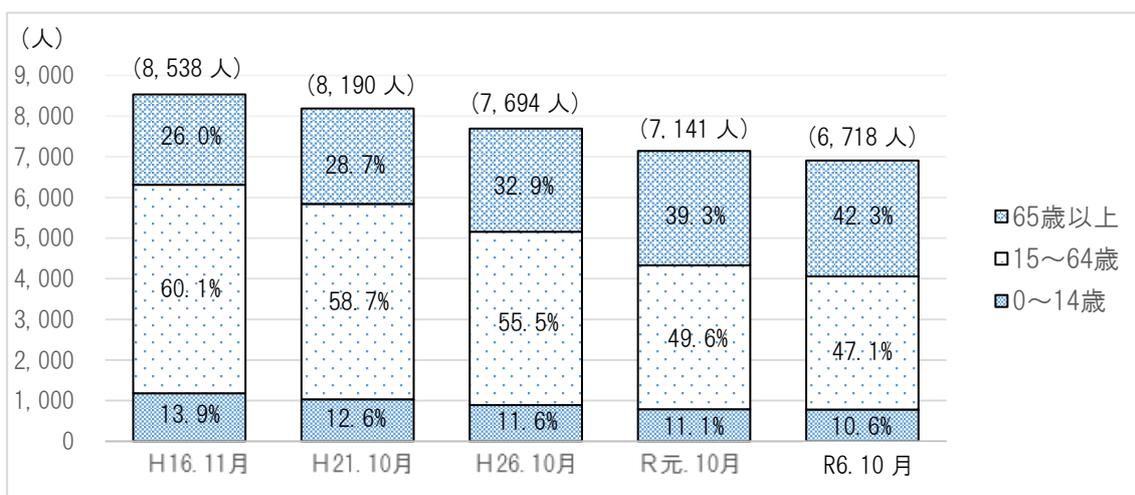
合併後は、平成8年3月から施行している郡山中央地区土地区画整理事業の推進により、生活環境の充実が図られているほか、平成28年1月に郡山体育館が開館し、隣接するスパランド裸・楽・良や郡山総合運動場などのスポーツ・レクリエーション施設との一体的な活用が図られています。また、交流事業を通じた地域間交流の促進に取り組んでいます。

(2) 人口等の推移

地域内の人口は、合併以降減少傾向にあり、現在では7,000人を下回っています。また、65歳以上の人口は増加しており、人口全体に占める割合は42.3%と高い比率となっています。

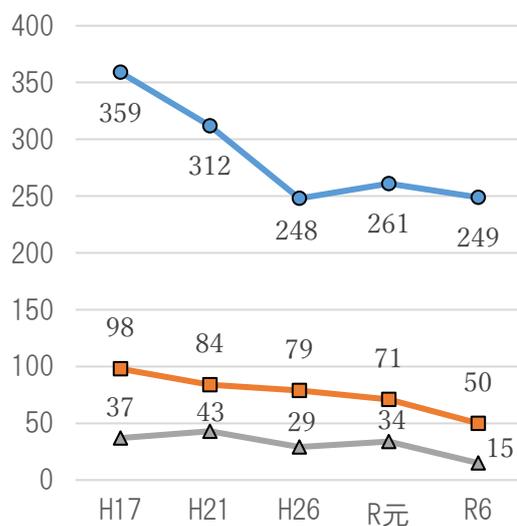
さらに、0歳から14歳の人口の割合が低下し、合併時と比較すると児童生徒数は減少しており、複式学級となっている小学校もあるなど、少子高齢化が進んでいます。

○住民基本台帳人口の推移



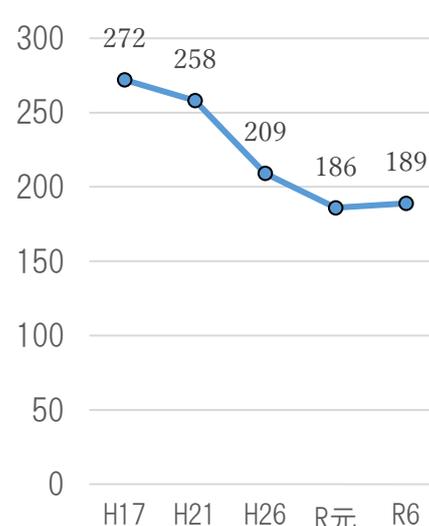
○児童・生徒数の推移（各年5月1日現在）

(人)



● 郡山小学校
 ■ 南方小学校
 ▲ 花尾小学校

(人)



● 郡山中学校

(3) 主な地域資源

花尾神社（花尾町）



花尾山の麓にあり、きらびやかな社殿は、日光東照宮に似た美しさから「さつま日光」と称されています。

源頼朝と島津氏初代忠久の母・丹後局を祭っており、創建は源頼朝の尊像を安置した建保6（1218）年と言われ、平成14年に県の有形文化財（建造物）に指定されました。

八重の棚田・甲突池（郡山町）



八重山の裾野の傾斜地に、階段状に石を積んで形成された約240枚の水田が美しい景観を形成し、市の景観形成重点地区に指定されています。

また、近くには市街地を流れる甲突川の源流（甲突池）があります。



| | |
|--|---|
| <p>スパランド裸・楽・良（東俣町）</p>  | <p>郡山総合運動場敷地内にあり、11種類の入浴ゾーンがある温泉と25種類のスパゾーンを備えた複合施設です。ジムやレストラン、宿泊施設等も併設されており、年間約20万人が利用しています。</p> <p>郡山地域にはその他にも4つの温泉施設があり、多くの人を訪れています。</p> |
| <p>彼岸花ロード</p>  | <p>郡山地域では、群生する彼岸花が毎年秋に咲き誇り、中でも川田川沿いの「彼岸花ロード」では、彼岸花と黄金色の稲穂が織りなす景観がサイクリングやウォーキングに訪れる人の目を楽しませてくれます。</p> |
| <p>八重山公園（郡山町）</p>  | <p>入来峠の高台にあり桜島、錦江湾、遠くは開聞岳も望むことができます。コテージや各種テントスペースがあり、家族やグループのキャンプが楽しめるほか、交流促進センター「てんがら館」は大人数の宿泊研修にも利用できます。</p> <p>また、野外ステージ、展望広場なども備えています。</p> |

2 令和5年度・6年度の取組内容

| 事業の展開 | 事業内容 |
|------------------------------|---|
| (1) 地域の資源を活用した新たなコンテンツ・商品の開発 | <ul style="list-style-type: none"> ・スパランド裸・楽・良を拠点としたe-Bikeのレンタルサービスを運営するとともに、利用促進に向けた取組を行いました。 ・史跡や自然体験などの地域資源を生かした体験型イベント（バスツアー）を開催しました。 |
| (2) 地域住民が主体となった取組の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・校区コミュニティ協議会と連携し、草花の植栽による地域景観のイメージアップを推進しました。 ・事業者が連携し、期間を定め地域全体を会場としたイベントと、会場を設けた1日のイベントの2本立てによる「いもどりマルシェ koriyama」を開催することにより、地域の製品や特産品の認知度向上を図るとともに交流人口の拡大を推進しました。 |

| | |
|--------------------------|--|
| (3) 住民主体によるデジタルを活用した情報発信 | 地域の事業者がグーグルマップ等のサービスを活用した、自発的な情報発信に取り組むための支援として講習会を開催し、訪問者の滞在時間の拡大と周遊促進を図りました。 |
|--------------------------|--|

3 地域懇話会における主な意見や事業に対する評価等

- 体験型コンテンツは将来性が見込めるので、宿泊体験や訪日外国人対応などの視点、自立して継続するための価格設定の検討も必要だと思う。
- 郡山は星空がとてもきれいに見えるので、夜を楽しむという視点も取り入れてはどうか。
- 既存の八重山の施設や地域団体が行っているイベントと協働することは事業の進め方や地域連携という部分でも効果的である。
- e-Bike レンタサイクルは利用者が少ない。利用者を増やすための広報・イベントは必要だが、運営方法の抜本的な見直しなどの検討も必要。
- バスツアーは参加者に好評で、地域の連携という点でも効果が高かったなので、今後も継続して実施していきたい。
- 特産品開発・販売は先進地調査や地域内飲食店の意向調査などを行ったものの、新しいものを作り出し、地域で共有していくことは難しい。地域事業者が開発した商品や、既存の商品をマルシェ等で紹介し認知度の向上を図りたい。
- 景観イメージアップ事業は地域住民が主体的に行う雰囲気醸成するきっかけになった点は評価できるが、植栽後の管理が難しい点や植栽に限定していた部分は今後の課題。
- 「いろどりマルシェ koriyama」は、約1か月にわたり地域の様々な業種の事業者が連携した新たな試みという点で効果は高く、次回以降の期待も高い。フィナーレイベントには2,500人を超える来場者があり、郡山の「いいもの」を知ってもらう機会となることができた。なお、地域全体を会場とした期間イベントでの電子クーポンの利便性、広報については改善が必要。
- 情報発信の地域事業者向け講習は発信力の向上という点で効果は高かった。今後は能動的に情報を発信するという意識付けが課題。
- 地域おこしに積極的に取り組んでいる人たちが後押ししていくことで、地域の魅力が広がっていく。

4 管内の課題

- (1) 地域内には花尾神社や八重山公園などの史跡・名所のほか、八重の棚田を代表とする景観、温泉などの豊富な資源がありますが、その魅力の磨き上げや資源の回遊性、情報発信が不足しており、十分に活用されていません。
- (2) 地域内では特産農畜産物のほか、カボス・小松菜を活用した加工品の生産が行われていますが、認知度が低く、イベント等を通じた販売の機会や地域内外への発信が十分ではありません。

5 課題解決に向けた方向性等

(1) 目標

自発的かつ持続的で魅力ある地域づくりを進めることにより、地域住民の生活を豊かにし、活気ある地域を目指します。

(2) 方向性

豊富な地域資源を生かしたコンテンツ等を創出し、点在する資源を有機的につなぐことで訪問者の満足度を高め、交流人口の拡大を図ります。また、住民が主体的に関わる地域づくりに取り組みます。

(3) 事業の展開

①地域資源を活用した体験型コンテンツの推進

e-Bike等を活用しながら、地域内に点在している史跡・名所や温泉、景観などのPRを行います。また、地域団体等による地域資源の体験型イベントを開催し、交流人口の拡大を図ります。

②地域住民が主体となった取組の促進

地域住民が主体となった地域の景観イメージアップを図るとともに、SNSやSEO※³などを活用した情報発信を行うことで、地域住民が主体的に地域のPRに参加できるという雰囲気醸成を図ります。

③郡山の魅力をPRするイベント等の開催

地域事業者等の各ブースでの展示・販売や、地域内で活動する方々によるステージ出演など、地域事業者等が中心となった魅力を発信するイベントを開催することにより、特産品等の認知度向上や、地域内外の交流促進を図ります。

※³ Map Engine Optimization (マップ検索エンジン最適化) の略で、Google マップなどの地図エンジン上で営業時間、場所、サービス内容、ホームページといった情報を正確に伝え、来訪者を増やすことを目的として行われる。



Ⅲ 連携事業

1 目的

合併地域全体の回遊性の向上や魅力発信の機能強化を図るため、支所の事業と連携し、共通の資源（食や景観など）を活用した魅力を創出する取組などを行い、合併地域への関心と訪問意欲を高めます。

2 事業の対象

国の調査で関係人口の出現率が高く、豊かな自然や地方への関心が高いとされる若年層（主に20代から30代）をはじめ、幅広い世代を対象とします。

3 令和5年度・6年度の取組内容

| 事業の展開 | 事業内容 |
|------------------------|--|
| (1) インスタグラム等を活用した情報発信 | ・メディアと連携して、テレビ・ラジオ、WEB、SNS等による多面的な情報発信を行いました。 ・公式インスタグラム「#ここかご」を運営し、合併地域の魅力を発信しました。 |
| (2) 合併地域共通の資源を活用した魅力創出 | ・高校生とのワークショップでレシピを考案し、商品開発を行いました。 ・大型商業施設での各地域の物産等の販売やステージイベントを通して魅力発信を行いました。 |

4 事業の展開

(1) インスタグラム等を活用した情報発信

若年層の利用率が高いインスタグラムを活用し、令和4年10月に開設した公式インスタグラム「#ここかご」を運用することで、合併地域の認知度拡大を図ります。また、インスタグラムユーザーが興味を持った地域の魅力について「#（ハッシュタグ）」を付けた投稿を促進し、他のユーザーが#検索を行うことで、多彩な魅力に触れる機会の創出に取り組みます。



(2) 合併地域共通の資源を活用した魅力創出

豊富な資源を有する合併地域において、市内の学校や事業者等と連携を図り、共通する食や景観、歴史などの資源を活用した事業を実施することで、市中心部にはない魅力の創出に取り組み、交流人口の拡大を図ります。

資料編



各支所地域懇話会の開催状況（令和5年度・6年度）

1 吉田地域

| 年度 | 回数・月日 | 内容 |
|----|---------------|--|
| 5 | 第1回 8月10日 | 1 令和5年度事業の進捗状況について 2 令和6年度以降の事業について ・旧吉田小学校跡地を活用した「あそびばよしだ」づくり ・子どもも喜ぶ吉田の弁当販売 |
| | 第2回 10月26日 | 1 令和5年度における今後の取組について 2 「地域と共に創るまちづくりプラン」に基づく令和6年度以降の取組について ・取組の方向性 ・検討すべき課題 |
| | 第3回 2月29日 | 1 令和5年度の事業実施状況と令和6年度の取組について ・令和5年度の事業実施状況 ・令和6年度の取組 2 「子どもの笑い声響く 吉田のまちづくり準備委員会」の設置等について 3 「地域と共に創るまちづくりプラン」の改訂（令和7年度以降）について |
| 6 | 第1回 8月1日 | 1 「地域と共に創るまちづくりプラン」（2期）について ・第1期プラン（5～6年度）の振り返り ・第2期プラン（7～9年度）の骨子 2 共創によるまちづくりについて |
| | 第2回 10月17日 | 1 「地域と共に創るまちづくりプラン」第1期プラン（5～6年度）における課題と今後の方向性について 2 第2期プラン（7～9年度）について 3 吉田地域活性化協議会の設立について 4 地域の魅力・活力共創事業（吉田地域活性化協議会主催）の7年度事業（案）について |
| | 第3回 3月3日 | 1 6年度事業の振り返りについて 2 「地域と共に創るまちづくりプラン」の改訂について 3 7年度事業（案）について ・吉田地域活性化協議会について ・主な7年度事業（案）について |

2 桜島地域

| 年度 | 回数・月日 | 内容 |
|----|---------------|--|
| 5 | 第1回 7月27日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の飲食店等の連携による魅力発信事業進捗状況 2 桜島の魅力体験に取り組む地域団体の支援事業進捗状況 3 デジタル化による生活利便性向上事業進捗状況 4 令和6年度に向けたプランに基づく事業について |
| | 第2回 11月13日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の飲食店等の連携による魅力発信事業進捗状況 2 桜島の魅力体験に取り組む地域団体の支援事業進捗状況 3 デジタル化による生活利便性向上事業進捗状況 4 令和6年度の事業概要（案） |
| | 第3回 3月4日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度事業報告及び令和6年度事業展開について <ul style="list-style-type: none"> ・地域の飲食店等連携による事業 ・改新地域空き家活用事業 ・デジタルサポート事業 2 次期計画（令和7年度以降）について |
| 6 | 第1回 7月16日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 地域と共に創るまちづくりプラン継続事業進捗状況報告 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の飲食店等の連携による魅力発信 ・桜島の魅力体験に取り組む地域団体の支援 ・デジタル化による生活利便性の向上 2 地域と共に創るまちづくりプラン改訂について |
| | 第2回 10月31日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 地域と共に創るまちづくりプラン継続事業進捗状況報告 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の飲食店等の連携による魅力発信 ・桜島の魅力体験に取り組む地域団体の支援 ・デジタル化による生活利便性向上 2 地域と共に創るまちづくりプラン改訂について |
| | 第3回 2月26日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 令和6年度事業報告について <ul style="list-style-type: none"> ・地域の飲食店等の連携による魅力発信 ・桜島の魅力体験に取り組む地域団体の支援 ・デジタル化による生活利便性向上 2 令和7年度事業計画について <ul style="list-style-type: none"> ・地域の飲食店等の連携による魅力発信 ・デジタル化による生活利便性向上 ・地域資源を活用した新しいコンテンツの創出 3 地域と共に創るまちづくりプラン改訂報告 |

3 喜入地域

| 年度 | 回数・月日 | 内容 |
|----|---------------|--|
| 5 | 第1回 7月27日 | 1 事業の進捗状況 ・大学等と連携した旧麓地区の空き家活用による拠点整備等 ・「喜び入るまち」のブランディングによる認知度向上 ・JR喜入駅における交流拠点の整備に向けた検討 2 来年度のプランに基づく事業に関する意見 令和5年度事業の進捗状況について |
| | 第2回 11月21日 | 1 事業の進捗状況 ・大学等と連携した旧麓地区の空き家活用による拠点整備等 ・「喜び入るまち」のブランディングによる認知度向上 ・JR喜入駅における交流拠点の整備に向けた検討 2 6年度以降の取組みについて |
| | 第3回 2月28日 | 1 事業の進捗状況と5年度の振り返り ・大学等と連携した旧麓地区の空き家活用による拠点整備等 ・「喜び入るまち」のブランディングによる認知度向上 ・JR喜入駅における交流拠点の整備に向けた検討 2 6年度の実施の事業について ・旧麓地区の空き家活用による拠点の運営支援 ・JR喜入駅における交流拠点の整備 3 「地域と共に創るまちづくりプラン」の改訂について |
| 6 | 第1回 7月17日 | 1 各事業の進捗状況 ・喜入旧麓交流館「陽だまり」運営支援事業 ・「喜び入るまち」のブランディング事業 ・JR喜入駅における交流拠点の整備事業 2 「地域と共に創るまちづくりプラン」の改訂について |
| | 第2回 11月5日 | 1 各事業の進捗状況 ・喜入旧麓交流館「陽だまり」運営支援事業 ・「喜び入るまち」のブランディング事業 ・JR喜入駅における交流拠点の整備事業 2 「地域と共に創るまちづくりプラン」の改訂について |
| | 第3回 2月19日 | 1 各事業の進捗状況 ・喜入旧麓交流館「陽だまり」運営支援事業 ・“喜び入るまち”ブランディング事業 ・JR喜入駅における交流拠点の整備事業 2 「地域と共に創るまちづくりプラン」の改訂について ・書面開催におけるご意見等 ・地域と共に創るまちづくりプラン（最終案） ・地域と共に創るまちづくりプラン（改訂案）の概要 |

4 松元地域

| 年度 | 回数・月日 | 内容 |
|----|---------------|---|
| 5 | 第1回 7月31日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 地域懇話会と推進委員会について 2 令和5年度の実績状況 3 令和6年度の方向性 |
| | 第2回 10月26日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度の事業進捗 2 令和6年度の事業概要 |
| | 第3回 2月20日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度事業について 2 令和6年度事業について 3 令和7年度以降の計画策定について |
| 6 | 第1回 7月30日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の魅力・活力共創事業と地域懇話会について 2 令和4・5年度の実績及び令和6年度の実績について <ul style="list-style-type: none"> ・松元の魅力を発信するイベント等の開催 ・スポーツを活用した交流の促進 ・地域の団体や高校との連携による魅力の創出 3 「地域と共に創るまちづくりプラン」の改訂及び令和7年度の事業展開について |
| | 第2回 10月17日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 令和6年度の事業進捗 <ul style="list-style-type: none"> ・松元の魅力を発信するイベント等の開催 ・スポーツを活用した交流の促進 ・地域の団体や高校との連携による魅力の創出 2 令和7年度の事業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・松元の魅力を発信するイベント等の開催 ・スポーツを活用した交流の促進 ・地域の団体や高校との連携による魅力の創出 3 「地域と共に創るまちづくりプラン」の改訂について |
| | 第3回 2月18日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 令和6年度事業の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・松元の魅力を発信するイベント等の開催 ・スポーツを活用した交流の促進 ・地域の団体や高校との連携による魅力の創出 2 「地域と共に創るまちづくりプラン」改訂の最終案について 3 令和7年度の事業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・松元の魅力を発信するイベント等の開催 ・スポーツを活用した交流の促進 ・地域の団体や高校との連携による魅力の創出 |

5 郡山地域

| 年度 | 回数・月日 | 内容 |
|----|---------------|--|
| 5 | 第1回 7月25日 | 1 各事業の進捗状況について 2 今後の実施計画について |
| | 第2回 10月31日 | 1 各事業の進捗状況について 2 今後の予定について 3 令和6年度の事業予定について |
| | 第3回 2月27日 | 1 各事業の進捗状況について 2 令和6年度の事業予定について 3 令和7年度以降のプランについて |
| 6 | 第1回 7月17日 | 1 各事業の進捗状況及び令和6年度予定について ・郡山の魅力再発見！e-Bike サイクルツーリズム事業 ・郡山まるごと満喫事業 ・特産品開発・販売事業 ・景観イメージアップ事業 ・郡山まるごと満喫マルシェ事業 ・郡山の魅力発信事業 2 令和7年度以降のプラン改訂について |
| | 第2回 10月30日 | 1 各事業の進捗状況及び令和6年度予定について ・郡山の魅力再発見！e-Bike サイクルツーリズム事業 ・郡山まるごと満喫事業 ・景観イメージアップ事業 ・いろどりマルシェ koriyama 2 令和7年度以降のプラン改訂について |
| | 第3回 2月18日 | 1 令和6年度の各事業進捗について ・郡山の魅力再発見！e-Bike サイクルツーリズム事業 ・郡山まるごと満喫事業 ・景観イメージアップ事業 ・いろどりマルシェ koriyama 2 令和7年度以降の取り組みについて ・郡山の魅力再発見！e-Bike サイクルツーリズム事業 ・郡山まるごと満喫事業 ・景観イメージアップ事業 ・いろどりマルシェ koriyama 3 プラン改訂について |

各支所管内の振興に係る地域懇話会設置要綱

(設置)

第1条 吉田支所、喜入支所、松元支所、郡山支所及び桜島支所（以下「各支所」という。）管内（鹿児島市役所支所設置条例（昭和42年条例第8号）別表に規定する各支所の所管区域をいう。以下同じ。）の振興に係る地域懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

(地域懇話会の名称)

第2条 各支所に設置する懇話会は、次の各号に掲げる管内に応じ、当該各号に定めるところによる。

- (1) 吉田支所管内 吉田支所管内の振興に係る地域懇話会
- (2) 喜入支所管内 喜入支所管内の振興に係る地域懇話会
- (3) 松元支所管内 松元支所管内の振興に係る地域懇話会
- (4) 郡山支所管内 郡山支所管内の振興に係る地域懇話会
- (5) 桜島支所管内 桜島支所管内の振興に係る地域懇話会

(所掌事項)

第3条 懇話会の所掌事項は、次に掲げる事項に関し、意見を述べることとする。

- (1) 管内に係る地域活性化計画（以下「計画」という。）の策定に関すること。
- (2) 計画に基づく事業の推進に関すること。
- (3) その他計画の達成に必要な事項に関すること。

(組織)

第4条 懇話会は、第2条各号の懇話会において委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 管内に所在する団体等の代表者又は構成員
- (2) 管内に居住する満18歳以上の者で公募に応じたもの
- (3) その他市長が必要と認めるもの

3 委員の任期は、委嘱された日から2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 会議は、第2条各号の懇話会において第7条各号に定める総務市民課が必要に応じて招集する。

2 会議は、第2条各号の懇話会において委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

3 前項の規定にかかわらず、緊急を要する場合その他やむを得ない理由により会議を招集することが困難な場合は、各委員が書面により意見を表明する方法により審議を行い、その結果をもって会議の議事に代えることができる。

4 第1項の会議について、必要があると認めるときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報償金)

第6条 委員が会議に出席したときは、予算の範囲内で市長が定める報償金を支払うこと

ができる。

(庶務)

第7条 懇話会の庶務は次の各号に掲げる懇話会に応じて、当該各号に定める総務市民課において処理する。

- (1) 吉田支所管内の振興に係る地域懇話会 吉田支所総務市民課
- (2) 喜入支所管内の振興に係る地域懇話会 喜入支所総務市民課
- (3) 松元支所管内の振興に係る地域懇話会 松元支所総務市民課
- (4) 郡山支所管内の振興に係る地域懇話会 郡山支所総務市民課
- (5) 桜島支所管内の振興に係る地域懇話会 桜島支所桜島総務市民課

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、令和6年4月25日から施行し、改正後の各支所管内の振興に係る地域懇話会設置要綱第4条の規定は令和6年6月1日以降に委嘱する委員から適用する。

あなたとわくわく



マグマシティ 鹿児島市

地域と共に創るまちづくりプラン

2023年3月策定

2025年3月改訂

発行・編集 鹿児島市



ホームページ

| | | |
|------------------|-----|---------------|
| 市民局市民文化部地域づくり推進課 | (電話 | 099-808-2815) |
| 市民局吉田支所総務市民課 | (電話 | 099-294-1211) |
| 桜島支所桜島総務市民課 | (電話 | 099-293-2346) |
| 東桜島総務市民課 | (電話 | 099-221-2111) |
| 喜入支所総務市民課 | (電話 | 099-345-1111) |
| 松元支所総務市民課 | (電話 | 099-278-2111) |
| 郡山支所総務市民課 | (電話 | 099-298-2111) |

Eメール chiikizukuri@city.kagoshima.lg.jp
